

神道政治連盟の「冊子」に関するキリスト教人権教育の現場からの抗議声明

2022年7月15日

全国キリスト教学校人権教育研究協議会運営委員会

<https://zenkiri.junyx.net/>

私たちは、全国キリスト教学校人権教育研究協議会運営委員として、キリスト教学校における人権教育の現場で、その推進に取り組んでいます。

私たちは、本年6月13日に開催された神道政治連盟国會議員懇談会において、性的マイノリティの尊厳を踏みにじる内容の講演が冊子に収録されて配布されたこと、そして、その差別講演の演者がキリスト教大学のキリスト教教育学を専門とする教員で、しかも大学の宗教活動を担う宗教主任であったことを新聞報道で知り、大きな衝撃を受けています。なぜなら、私たちは、差別され抑圧されている人々と共に生きようとしたイエス・キリストの精神を受け継ぐキリスト教学校こそ、人間の尊厳を守り、差別からの解放を目指す教育を推進していくべき、いや、していかねばならない。それこそがキリスト教教育であり人権教育であると考えて活動してきたからです。

なぜ、講演者の楊尚真（ヤン・サンジン）氏は、同性愛は「回復治療や宗教的信仰」などによって「抜け出すことが可能」な「精神の障害、または依存症」などと、長い間性的マイノリティを苦しめてきた、そして、今では非科学的な事実誤認であることが広く知られている差別言説を口にすることができたのでしょうか。それは、楊尚真氏が人間よりも、既存の制度や規範を優先しているからだと私たちは考えます。

楊尚真氏は講演のまとめの部分で、「性の多様性、人権や個性の尊重といった聞こえのいい言葉」を主張する人々の「目論見」は、「伝統的家族制度の解体、キリスト教等の反同性愛宗教、性規範の解体」であり、「アナーキー社会の実現」だと述べています。それって、私たちのことですか？私たちは「アナーキーな社会」を目指して「性の多様性、人権や個性の尊重」を主張しているのではありません。「伝統的家族制度」や「反同性愛」の立場をとるキリスト者の「性規範」が、性的マイノリティの尊厳を徹底的に踏みにじってきたがゆえに、そうした既存の制度や性規範を作り変えながら、「誰一人取り残さない共生社会」を目指していくとしているのです。

制度や規範は変えられないものではありません。むしろ、人間を苦しめるような制度や規範は変えていかねばなりません。イエス・キリスト自身が、そのような制度や規範に抵抗し、苦しんでいる人々に徹底的に寄り添おうとしたではありませんか。人間よりも制度や規範を優先するのは、キリスト教精神に反することです。

はじめに人ありきではなく、制度ありき、規範ありきの楊尚真氏と、そのような楊尚真氏を自らの主張を補強するために登用した神道政治連盟に私たちは激しく否と言い、そのような姿勢が生み出した性的マイノリティに対する数々の暴言に強く抗議します。

私たちは楊尚眞氏に、そして、楊尚眞氏が所属する弘前学院大学に、神道政治連盟ならびにその国会議員懇談会に求めます。性的指向や性自認等においてマイノリティであるがゆえに偏見や差別にさらされ、さまざまな困難を押し付けられている人々の声を、どんな高名な学者や研究者の講演より優先して聞いてください。なぜなら、それらの人々の声こそが、私たちの社会が進むべき方向を示してくれるからです。キリスト教は「反同性愛宗教」ではなく、「神は困難の中にいる人々と共におられると信じる宗教」だと考えている私たちもそのようにしながら人権教育に取り組んでいきたいと思います。「誰一人取り残さない社会」はそこから始まるのですから。

以上

同時に神道政治連盟、神道政治連盟国会議員懇談会、楊尚眞氏、弘前学院大学学長宛「要望書」を発表しました。